

幼 兒 教 育

第十九卷
第六號

大正八年六月一日發行

英米幼稚園の現況

——五月十七日日本幼稚園協會總會の講話——

東京女子高等師範學校教授 藤 井 利 譽

米國に於ける幼稚園の起源

既に御承知の如く、米國は教育の進んだ所と申してよいと思ふ。只、其進んで居る事が深みがあると云ふのは、或は其實質の上に於て、よく出て居るか否かは別として、兎に角普及して居る事は明かな事であり、従つて、幼稚園の如きも其數極めて多く、且種々種種の目的を有するもの、又、設立者經營者にもいろいろあるが誠に普及されて居ると思ふ。しかしながら今日かく迄に一

般的になつてゐる幼稚園も其起源に溯れば、決して遠くはないのであります。

初めて米國に幼稚園の出來ましたのは、西曆一八五五年で、フレイベルの弟子であつたミセス、カール、シユルツによつてかのウキスコニン州のウオーター、タウン、に建てられたものであります。其の後十五年間引續き各所に獨乙風の幼稚園が開かれ其の數、十以上に達しました。

しかし英語をはなす子供、即ち米國人のための幼稚園の初めて開かれたのは一八六〇年であつて

これは、ボストン市に於てミス、ピポデーによつてなされたのであります。其後の變遷の大體を次に述べる事とします。

幼稚園設立に關する種々の運動

米國の幼稚園が設立される上に於て一八五五年から一八六〇年乃至七〇年の間に如何なる運動が行はれたかと云へば之を大體四つに分ける事が出来ると思ふ。

第一種の運動——これ即ちボストン市に於てミス、ピポデーが初めて行つたもので幼稚園の草分けとも云ふ事が出来る。

第二種の運動——慈善的運動でこれはマツサチユーセツ州のフロレンスに初めて起つたものでやがて米國全體に擴がる様になり、サンフランシスコに於て最も盛になつたのであります。

第三種の運動——國民教育的運動でこれはセントルイスに於て初まつたものであります。

第四種の運動——これは母のための教育を主として起つたもので幼稚園の教育は先づ母の教育をしなければならぬと云ふ意見による運動であります。

扱第一種のもは其後一般民間に廣く紹介されてボストン市ではやがて教育局に承認され公費を以て實驗的に、公立幼稚園が出来たのであります、其最初の創立者たるミス、ピポデーは、先づ獨乙に行つて研究したのであります。(獨乙には既に一八四〇年に初めて幼稚園がたてられたのであります)ピ氏は千八百六十八年歸米後この教育の宣傳に生涯を捧げたのであつて、かの基督教宣教師が傳道する如くにこの幼稚園教育主義の傳道を實に熱心に眞面目につとめたので、之がやがてボストン市の教育課に認めらるゝ所となり、遂にひろく普及するに至つたのであります。

私が或る時かのコンコルドにエマーソンやホーソンの墓所を尋ねた事があつた。其時に小學校の

子供が私に「もう一つの墓に是非おまゐりせよ」と云ふので誰の墓かときくと「幼稚園の先生のお墓」と云ふのでありました、其時に私はまだピ氏の事は少しも知らなかつたのでしたが、勧めらるゝまゝに幼稚園の先生ピポデー氏の墓に詣でたのですが、かく小さな子供達の頭脳にまできざまれてゐるのを思へばピ氏の幼稚園に對する功績の偉大なる事をしのぶに餘りあると思ひます。

このピ氏の運動はポストンよりニューヨークにも其他各方面にひろく擴まり幼稚園に關する雑誌會報なども盛に出す様になつたのであります。

第二種の慈善的運動は、マツサチユーセツツ州に起つたのであります。ミセス、シヨーが先づポストン市に此種の幼稚園を設けシヨー氏は永き間この慈善事業に従事貢献する所多大であつたのであります。其後この運動が米國の各地に擴がり特にサンフランシスコではゴールデンゲート、アリ

シエーションもとに幼稚園が盛に經營されたのであります。其規模に於ても數に於ても一時なか／＼盛でありましたが、其後經濟上の影響でやゝ衰へたと云はれて居ります。

第三種の運動は一名セントルイスの運動とよばれて有名なものであります。當時このセントルイスの教育課長であつたウイリアム、ハリス氏が大にこの種の運動に注意を拂つたのであります。氏の意見では「フレーベル氏の教育意見に従つて四才乃至六才の子供は教育を受けなければいけない又この傾向を公民教育パブリックの中にも取入れねばならぬ」と云ふのであつて、丁度一八七三年の秋に初めて、セントルイスに四才乃至六才の子供の教育をなす場所——幼稚園——を實驗的に建てたのであります。其後、この例に倣つて此新教育主義の幼稚園が續々起つたのであります。一八八〇年、ハリス氏が職を辭する頃には、既に二千八百余の兒童

がこの幼稚園教育をうけたと云はれて居ります。

當時、此新教育に對する世間の攻撃も決して少くなかつたのであります。或者は「幼稚園の教育は經濟上から公立學校の費用の中に入れる事は出来ぬ」と拒み、或は「フレーベル氏の教育主義は幼兒本來の美性を損ふものなり」とし、或は幼稚園教育を受けた幼兒は小學校に行けば禦しく、取扱ひにくくなる」など其他種々の攻撃の矢に對してドクター、ウィッスは「幼稚園教育は學理上よりも又教育行政の上よりも、適當又かくべからざるものである」とて動かさず、あらゆる反對攻撃を退けてつひに成功したのであります。しかし其間には實際上經費の上などに種々の困難を生じ、ハリス氏は苦闘よく之に打勝つたのであります。今日考へれば、氏の教育意見は左程新しいものではありませんが、此當時の人々にとつては、氏の主張、其信念は實に新思想であつたのであります。氏は四才乃至六才の幼兒期が危険多きもので、この期の子

供の要求は學校や家庭では充されぬ、優良なる指導の下に幼稚園を經過したるものは小學校に入學の後によりよき成績を擧げて居ると云ふ事を縷々述べて居ります。この權威ある所論が幼稚園教育の可能を他の教育者にも信せしめ遂には幼稚園教育に従事すべき教育者——保姆——の養成の必要を認め、之に着手するに至つたのであります。かくてこの運動により、小學校教育の系統に幼稚園教育が一段階をなすに至つたのであります。

第四種の運動はシカゴを中心として起つたもので、即ち先づ母親に對する教育をしなければ幼兒教育の事業は成功せぬ之を等閑に附するは寧ろ不思議な事で、誰でもフレーベルの本をよめばこの運動の必要は認め得るに相違ないと云ふ事を主張して居ります。一八九〇年頃にシカゴ市の某所に先づ大學の一部として母のために必要な幼兒教育の理想、方法などを研究する機關が設けられまし

た。最初は極めて微々たるものでありましたが、次第に發展して、保姆教育の機關も設けられ、一方に母親もこゝに來て幼児教育を理解する事が出来る様になり學生も増し又かゝる教育の機關が米國各地に傳播するに至つたのであります。

次に、モンテッソリー主義の教育をするものについて考へて見ますと、一九一六年の米國文部省報告によれば、モ氏主義の學校はニューヨーク市、内外に二十校あり、其後ますます其數は増加して居ります、一九一七年には更に十校の増加を見、その内の六校は純粹の幼稚園ではなくて、托兒所となつて居ります。これらのモ氏幼稚園の兒童數は一組少きは二十五人、多くて四十人位です、其後、モンテッソリー協會の調査によれば、全くモンテッソリー主義によつてたてられ之を實行して居るものが米國全體に一八九校あると云ふ事です此の外にも諸學校に附屬してモ氏の主義をとつて

居るものは米國全體に實に三千校もあります、之が單に幼稚園と云ふ幼児期教育のみでなく、更に小學校、或は以上の教育にまで及ぼさんとする傾向が益々盛になつて居ります。

米國に於ける幼稚園の統計

以上のごとく各種運動の結果普及されて居ります幼稚園の統計を見ますと、公立の幼稚園が米國全體で實に八四六三校（一九一七年現在）あり、其中最も多きは、ニューヨーク市で、一七四六校あります、この全體に就學して居る兒童は約四十三萬人、日々出席平均數は二十五萬人、其保姆の數は約九千人であります、各州多少の相異はありますが、大體に於て保姆一人の受持平均は先づ二十七人強となります、尤もニューヨーク市のごときは人口多く従つて子供の數も多きため、保姆一人の受持平均は三十一人斗りとなつて居ります。

かくのごとく、幼稚園が増加するとともに一方

保姆養成の事業も盛になり、この養成所は、私立及幼稚園協會の維持にかゝるもの合せて百校以上あります。又、米國全體を通じて州立の師範學校百七十餘校には何れも保姆養成所が附屬して居り又二十餘の大學カレッジ（日本の大學とはやゝ趣を異にしたるもの）にも、やはり、この保姆養成所部があります、四十八州の中で約二十七州は公の金（即ち租稅）を以て幼稚園を經營すべき事が州の法律で定められて居ります。しかし一方に彼の國は各州それづくに自由になつて居るために八州だけは何等の法規によらず個人が自由にたて、よいと云ふ事になつて居ります。

シカゴ教育大學附屬幼稚園

私は最初自分の研究のためにシカゴ大學に居りましたが、此大學には教育部がありそこに幼稚園小學校、中學校が附屬してゐます、幸この幼稚園を見學いたしましたから、勿論代表的のものとは

云へませんけれども其大體を申上ませう。

(一)設備——室は附屬小學校の二教室を用ひて居るのですが勿論室の構造など完全なものであります。一つの保育室は、四間半に五間位で、室の周圍には低い戸棚があり、其の幅二尺位で壁から前方に出て居ります、戸棚の上には植物などが置いてあります、一方の壁に戸があり、之を開くと中は、庫の様になつて居つて遊具が入つて居ります、實に小さな室をよく用ひて居るのには驚いたのであります。

この室の隣に二間四方の室があり、此處には小學校で用ふる、机椅子が入れてあり、此處は年長の組の幼兒が時々入つて、稽古をする所です。室の外には、外套、帽子などを一人一人に入れる事が出来る設備があります。

飲料水は噴水的になつて居つて、自由にのめ、且衛生的に出來て居ります。

廊下は、非常に廣くて、此處には、滑り臺、シ

トナーなどの遊具があり、これは冬期戸外に出られぬ時に此處で自由に遊ぶ事が出来、且また、室内に迄持ちこめる様になつて居ります。

遊園は特に幼稚園のために設けられたものではなくて、小學校の子供と、一緒に用ふる様になつて居ります。

校舎の近くには、畑があり、植物の發育の有様を自由に觀察し得る様になつて居りますが、自然物の觀察のためには、室の窓の所の空間を利用して、其處に箱をおいて、種々のものを播いて居ります。内部をブリキ貼りにして土を入れ外側を籐づるで籠の様にして、體裁よくしてあります。其處に豆や菜をまいて、子供に栽培をさせます。或は鼠などを飼育してたえず子供に世話をさせて居ります。

尤もシカゴはお存知の如く夏はあつく、冬はまた随分寒い所ですから、戸外で遊ぶ事よりも室内でくらす事が多いので室内であそぶために種々の

工夫がされて居るのであります。

(二)編成——この組の子供は二十名で一組だけでした。ミス、ゴルドンが主任保母でこの人は日本の教育にもなかく興味を有し語つて面白いと思ふ事もありました、私の居る間に結婚をして職を退きました)この婦人の下に若い助手が一人ありました。

保育は、ある特別な作業の外は二十人を一諾にして二人で保育してゐます、尤も教育大學の方の教生(特に將來保母たらんとする人)が来る時期には二十人を幾つにもわけて、幾つかの團體にする様になつてゐます。

(三)一日の保育——保育時間は毎日、午前九時より同十一時四十五分迄です。この間を幾つかに短く、細かくわけて居ります。

先づ九時より同三十五分迄は、朝の挨拶、出席調査、簡単な運動などがあり、九時三十五分より同五十分迄の間はお話(主として會話子供に自由

發表をさせ、又は自然物の手入など、九時五十分より十時迄は休憩、十時より同十五分迄は音楽、十時十五分より同四十五分迄は作業（主として構成的のもので例へば大きな家を紙でつくるごときこと）、十時四十五分より同十一時迄は遊びをなすこと、十一時十分より同三十五分迄は手技、十一時三十五分より同四十五分迄は面白き話をなし、十一時四十五分に帰宅と云ふ事になります、此間に休み時間は室外及室内各々わづかに十分づゝであります。

かくのごとく時間をごく短く區切る保育法は其可否如何について研究はしてゐませんが、私自身多少の疑問は持つて居るのであります。其後ニウヨークのテイチャース、カレッヂに參りました時にもこれに類した幼稚園を見ました、ニウヨークの方では十時の休み時間にテーブルの上を子供達がよく掃ふて、紙のナブキンを敷いて、子供達が持つて來た菓子を先生と一緒に食べるのでした。

シカゴの方では初めにビスケットを籠に入れて之を先生の机の上のせて置きます、子供は各々手を奇麗に洗つて室に入り、一人一人が一つづゝ机の上からビスケットを取つて自分の机に歸つて靜かに食べるのでした。其間の規律がよく行はれ、先を争ふものもなく誠に應揚な様子が見うけられました。

(四)作業に就て——子供のこの幼稚園に於ける作業は私が見ましたのは大正六年の二月から四月五月の頃でそれもごく二三に過ぎぬのですから、他は皆様に想像して頂く外はないと思ひますが、先づ子供が談話を聞く様子を申しますと先生は椅子に腰をかけ、子供は小さな座薄團（薄團と云つても小さなもので帆布綿でつくつた簡單なもの）を室の一隅からもち來つて、之の上にあぐらをかいてきてゐる。話がすむとまた椅子にかけ、机をもち出して作業をする、即ち室内における姿勢に種々變化を與へる様にして居ります。

作業は主に構成コンストラクティブ的のものを撰んで居り、紙

又は木片を用ひて、なか／＼大形のを構成します。例へばボール紙を用ひてある町の商店をあらはし、其處には牛肉屋もあれば、雜貨店もありその店にはまた人形をつくつて賣る人、買ふ人をあしらひ随分大仕掛に、又連續的に構成します、或は長い積木で家とか、燈臺とか、さまざまのものをつくりそれも大仕掛で子供に背のトツかぬものは踏臺までして組みたて、居ります。

これは構成するばかりでなしに、之を用ひて、保姆は子供といろ／＼の對話を致します、例へば教會をつくれれば之に説明を與へそれからそれへと話をすゝめて行き、或は室内の裝飾に先生が相談にのつて子供と一緒に構成して行きます。かくて實際生活の有様を知らしめ考へしめるのであります。

作業の大體は日本の幼稚園でして居る事と大差はないと思ひますが、たゞ一つ此幼稚園では、文

字及數の初歩を教へて居ります。尤もそれは此園兒の中でも年長の組、即ち六才七才の子供に教へるのであります、先にのべました二間四方の保育室はこの目的に用ひられるのでそのために小學校用の机がならんで居るのでした。此處には黒板もあり、又、熟字をかいたカードもあります。又、木の活字で印刷した大きな掛圖があり之を掲げてよませます。

此室のあらゆるものにはその名稱をかいた紙片がついてゐます、窓には window. 机には desk などの如き其他手拭、石鹼にいたる迄、一々正確に紙にかいてピンでとめてあります。かくして見るものふれるものに子供がおのづから正確な觀念を得る様にして居ります。此處で文字の教育をして、もし成績がよければ、その兒は小學一年級の後半に進級が出来るかと云ふ様になつて居ります。

算術の方では種々の場合を利用して數の觀念を與へる様にして居ります、私はある時、一つのコ

マを廻してそれが廻つてゐる間に一、二、三と數へるので一人の兒は八十迄數へて先生から賞められて居りましたを見ました。

かく文字及數の觀念を幼稚園期にわざ／＼與へる事は教育上進んだ考へであるか否かはまだ研究の餘地があると思ひますが、幼稚園のある時期に數及文字を數へる事は其方法よろしきを得れば不可能なる事ではなく、ことに我が國語のごとき覺えるに困難なものはこの點を大に研究する必要がありと思ひます。

(五)衛生に就て――二月の極寒の候でも暖室法が充分であるために幼兒はごく薄着です。四季を通じて極く質素な夏服です。財産家の子が多いこの幼稚園でもその服裝は全く洗濯のよく出来る丈夫を主とした地質を撰んで居る事は日本流に考へて誠に羨しい程に思ひました。室内の溫度は六十度位を保つ様にしてあります。従つて戸外に出る時には厚いあたいかい外套を着ます。つまり衣服

の調節がよく出来る様になつて居ます。

室内の掃除はきはめて行届いて居りますので、床の上にゴロ／＼ねても着物の汚れる事はありません。

子供の椅子には日本流に薄團を結びつけて居る所はシカゴのこの幼稚園のみならず何處にも全く見當りませんでした。木のゴツ／＼した腰掛にそのまゝ腰かけるのです。これは室がよくあたいまつてゐる爲かもしれませんが子供が冷えるなど、云ふ心配はして居らない様です。

(六)訓練上について――この幼稚園では概して訓練が嚴格な様に見受けました。あまり自由勝手は許されません。遊戯の間にも、大聲を出すとすぐ罰せられます。談話の最中に少しさわぐ兒は列外に出されてしまひます。私はこれについて教師に意見をきゝますとその答は「幼稚園の教育は唯自由を許して放埒であつてはよくない、少し嚴格な主義の方がよろしい。この學長の、ドクター

チャットは嚴格訓練主義です、それ故私も其主義をとりまします。」と

嚴格ではありませんが、この主義のもとに訓練されてゐる幼児がかの構成的の作業をなす時の如き作業に熱中して一心に注意を集注する事は驚く斗りです。決して日本の子供の様にざわ／＼して居りません、ごく落付いてゐますこれは實に想像以外でした。

或る時、私は休憩時間に子供が水をのむのを見ましたが、フト一人の子が先にかけて出して、水飲み場に行くと、あとの子は決してドヤ／＼と馳けません。先生も誰も指圖するものは居らぬのに、彼等はいつとはなしにチャンと一列に奇麗にならんでしまつて順々にしづかに一人づゝ水のみに行くのでした。一體に自由と規律とが相伴つてゐる様で教師の云ひつけは眞面目に受入れます、そして多くの場合に先生も生徒も靜肅沈黙を守る事多く、小學校などでも決して我國のごとく「先生、

先生」とやかましく云ふ様な事はありません。

その外、シカゴで師範學校附屬のもの、又モンテッソーリー主義のものも見ましたが大體に於て大差なく又、日本で行はれてゐる幼稚園教育とあまり變らぬ様に思ひました。

米國に於ける幼稚園教育

に對する論議

かくのごとく各州に普及して居る幼稚園教育がしかも教育の意見に於て、大に進んで居ると思はるゝ米國に於て、今尙幼稚園に對する批難の聲は盛であります。又其の批難に對して一々答へは與へられて居るのであります、次にその大要を申上ませう。

(一) 小學校教員側の批難で、それは「幼稚園から來た子供はどうも取扱ひにくい、彼等の性質は幼稚園にある間に損はれてゐる、小學校は幼稚園を

經ない子供、家庭から新たに來る子供を歓迎する」と云ふのであります。これに對しては、文部省の幼稚園部に於て幼稚園協會と合同して立派に答へて居ります。曰く「かくの如き批難をする教師は兒童の發達に興味をもたぬ人である。家庭から來る子供は、どうしても學校と云ふものに對して、一種の恐怖を有し分離的感情を免れない此等の特性の上に形式的訓練を建設しやうとする小學校教師は、全く幼稚園から來る子供に初めから同情をもたない、又、子供の知識又は教育に重きをおかぬ人である。それ故かゝる反體の意見は幼稚園教育の弱點を指摘するのではなく、小學校教師自身の弱點を示すものであると見て差支へない。幼稚園教育を不必要とするものは、教育は自發的活動から出發するものである事を知らぬ人、之を實行せぬ人である。もしも、教師が受身と秩序、放埒と自己發表とを混同して居るならば、それこそ、幼稚園から來る子供を取扱ふ事が困難である

う。何時でも受身的に働くものを、從順であると思ひ、自己活動をするものを放埒と誤解する、かゝる人は幼稚園の教育を不良なりとするであらう。しかし、また、これらの批難が幼稚園の理想理論に加へられしにあらずして、今日の實際の方面に加へられたものとするならば、保母は反省しなればならぬ。もし自由と放肆とをはき違へて不從順無作法、激發性の習慣等を許して教育する保母があるならば、それこそ子供はかゝる教育のために不良になるであらう。しかし、それは、幼稚園教育を理解せぬ保母に加へられる批難であつて、教育そのものには加へらるべきものではない。現代の心理學や衛生學の研究は凡べてこの時期の教育の樞要を認めて居る」と。

(二) 幼稚園では子供は何にも學んで來ない。この聲は日本でも從來幼稚園を理解しない家庭からよく起つた聲ですが、既に今は我が國に於てはこの考の誤れる事は明らかになつてゐます。——こ

れに對する答もまた堂々たるものであります。曰く「米國各地に行はれたる實際の調査は、幼稚園から來た子供は之を通過せぬ子供以上に其の自然的活動力、數の觀念、注意力、想像力等、はるかに勝り、また一事に對する反應なども、すぐれて居る事を明らかに示して居る。

たゞ幼稚園で鍛えられた力を小學校で其の擴張が妨げられる、又小學校の方で其の擴張を誤ります事が多い、これ小學校と幼稚園とが充分聯絡しなければならぬ所以である。又一方幼稚園から來る兒は家庭から來る兒より數に於て少ないためにこれらが一緒に小學校教育をうける時にその差が尊重されにくい事もあろう。しかし其の幼稚園教育功果の大なる事は明らかなる事である。

或る人は、すべて學ぶと云ふ事は、何時でも頁の上に印刷されたものからだけ學ぶと考へてゐるしかもその人は文字の上にあらはされたものは其の文字以外に觀念を必要とすると云ふ事を理解せ

ぬのである。明らかに開いた眼、よく傾聽する耳さめた心、これらは幼稚園教育の豊富な多様な實に變化に充ちた經驗の結果得らるゝものである。

到底他の場所では學ぶ事は出來ない。文字を讀む技術は發達の程度から云へば後から來るものである。この技術を得る前に之を理解する觀念をつくる事が大切である。之が幼稚園の仕事である。遊戯は幼兒の優勢なる本能であつて此の時代の自然の活動である、活潑に、存分に遊ぶ子供は將來精一杯に活動する大人となるのである、蓋し一時代は次の時代を形成するのである、故に子供は幼稚園に於ては遊ばねばならぬ故に遊ぶのである、決して時や勢力の浪費と見るべきでない、と

(三) 幼稚園は子供を神經質にする、——これに對しても、やはり之は保母その人の問題でもしもやたらに過度に幼兒を刺激して顧ざる如き先生に取扱はれればかゝる心配もあろうけれ共、これは實際上、學理上、幼稚園の理想ではない、即ち

そのシステムの罪ではないと答へて居ります。

(四) 一體、四歳乃至五歳の子供は只健康であればよいので、それを幼稚園などに送つていろいろ他の要求をする必要はない、机や椅子に束縛させる必要はない——之に對しては、かゝる事は教育は人類の全時期を通じて、それ／＼に必要な時期がある事をしらぬ人の言葉である。かりにも人間と生れた以上は其如何なる時期にも全く動物や植物のごとき生活のみではない、高等なる精神的生活の萌芽は必ずある、之を無視する事は出来ぬ。

(五) 幼稚園は室内で教へる教育ぢやない出来る丈戶外で遊ばせる筈である、幼稚園とは子供に對してあるのでなく子供に依つて成立つものである其名が、ガーデンであるごとく、のび／＼と園に放ちて遊ばせねばならぬ——と。私の見たシカゴ幼稚園でも室内生活が多かつたので、米國では氣候風土の關係上、戶外で多く遊ばれぬ所もあるので

勢ひ、かかる批難も起るのでせうが、日本の如く氣候もよく温度も天候もよい所では、子供の戶外生活をさせる上には誠に好都合なのであります。

(六) 幼稚園は貧乏人に必要なもので、富者、否、相當生活をするものの家庭には不必要である。と、——この聲は日本でも往々きく事で、即ち幼稚園を托兒所と同一視するのであります。一體、どこに住居があつたにしても、幼兒はつねに幼兒である、幼稚園を要求せぬ子供は米國全體を見渡して決して多くはない。如何なる富貴の家庭の子でもその子に必要な社交性、社會性、自己抑制の心社會生活にかくべからざる共同の精神、犠牲的精神などは何處で發達させるかと云へば、これ實に同年齡、同時代の子供の間に於て初めてなし得らるゝものである、たとひ家富み侍者多く、家庭教師あり、又たとひ兄弟の二三人以上あるにしても之では不充分である、人間の凡べての時期を通じて、我々は多くの人と共同の生活をしなければならぬ。

らぬもので、これに對する教育は極めて大切なものである。

充分に教育あり素養ある教師の態度、組織せられたる發達の計畫にしたがひ、材料が差出される事及び健全なる競争をさせるために、互に刺激されて行く事などは、如何によき米國の家庭でも到底行はれない事である、よき幼稚園の設備は衛生上から云つても家庭よりはるかに善い、空氣もよく運動も自由である。

それ故理論上に實際上に、ある特別の家庭生活をなし得るものの外は貧も富も其區別なく、幼稚園に出して其の教育を受けさすべきである。と

以上諸論から翻つて我が日本の教育界の現在ならびに將來を考へますならば、幼稚園教育及小學校の初年級に於ても、研究すべき事柄の多々あるを思ふのであります。

英國のインフハント

スクール(幼稚園)

英國のインフハント・スクールは、小學校教育と幼稚園教育とを調和したものとも考へられます。五歳から入學を許し、最初の一學年は我が幼稚園の様な事をします。學課は定められてありますが算術、英語(讀方、書方)圖畫、體操、作業、唱歌、聖書の話などで之を一定の時間數だけやつて行くのであります。例へば年少の組では國語が一週間二百二十分、體操が百二十分、唱歌が八十五分乃至九十分、となりこれをまた一日の中にあてはめて居ります。

九時から初めて二十分、三十分、十分と云ふ様に區切つて十二時に一先づ休んでこゝで晝食をなし、また一時五十分に初まつて、三時まで續きます、十二時迄と一時迄に二十五分づゝやすみます。

大體の方法は、一言すれば、先づ幼稚園的にして居るので、國語と云つても教科書を用ふるのではなく、文字の發音を教へ、又は面白い話をよんできかせるとか、容易しいものを讀ませるとか致します。

圖畫、習字などにもペンは用ひさせず何れもチヨークを使はせて居ります。私の參觀しましたインフハント・スクールの校長はこのペンを用ひさせぬ事について「五つや六つの子供に、あの堅いペンを使はせる事は不賛成です、習字も圖畫も皆チヨークにして、しかも繪などは色チヨークで自由にかゝせます」と申して居りました、丁度私の見て居りました時に、幼児はなか／＼進んだものを見てゐました。二人の仲間を後向き立たせて、之を寫生してゐましたが、出來上つたものは、それは頭や手や胴のつり合ひはとれていませんでしたが、兎に角大きな畫題をとらへて、それを子供の腕でどし／＼こなして行くのには感心しました。

またある室に行つて見ました所が、室内に鳩を飛ばせて、之を見ながら子供は粘土で鳩をつくつてゐました、出來上つたものは足か馬の足の様な鳩でしたがそれでも、子供はこの寫生的に彫刻した作品を立派なものとして大得意でした。

このインフハント・スクールでは午後は學課はなくて、子供は室に入つて自由遊戯をして居ります。竹馬に乗るもの、人形をもつて遊ぶもの、水の上に船を浮して喜ぶものなどさまざまです、やがて疲れた頃に「皆室にかへつて寝やうぢやありませんか」と先生が云ひます、すると床の上に各々ベットを置きます、ベットと申しても机を逆さにしてその四本の足を柱として帆木綿で出來た吊り床を擴げるのです、窓のカーテンの黒布を下しますと、室内は丁度、夕方位の光線になります（ロンドンには霧が多い所として日中でも光線の直射はあまり見られませんが）教師は、之を見守りながら何か仕事をしてゐます。かくて三時にはそれ／＼

歸宅するのであります。

大分お話が永くなりましたが終りにロンドン市中に行はれてゐるモンテッソリー主義の幼稚科について一言致しませう。モ氏の主義と申しても、其の器具を用ひて居るだけで、其の眞の主義を採用する點では別法を講じて居る所もある様です。

私は、ロンドンの北のイスリングトンのインフハント・クールを一日參觀いたしました。丁度、地方視學に案内されましたが其視學は大にモ氏の主義に反體で今參觀しやうとする學校の校長のモ氏主義の主張をひどく批難攻撃して居りました。しかし、いよ／＼學校に行つて見るとその校長は四十位の婦人でしたが、その視學及外國人たる私を丁重にもてなしてくれました。しかも其のモ氏主義に對する熱心なる主張と確信とをその主義に大反體の視學を前において、少しも恐れる所なく憚る所なく發表されました。私はモ氏主義の學校

そのものを見に來たよりもこの元氣な勝ち氣な婦人の確信ある態度に得る所多かつたのであります。英國の婦人があらゆる方面に社會的活動をする事はかねてから、きいて居りましたが、この婦人にその實際を示されました、其活動的積極的方面を見せられたのでした。

* * * * *

以上、ごく簡単な視察談ながら、時間も大分たちましたから今日の講演は之にておはる事と致します。

(筆記……文責記者)